



2021年（令和3年）9月21日 // 火曜日 // 第9号

プレジール通信

“プレジールのいま”を（不）定期的にお伝えします。

ワクチン接種



変異を重ね、猛威を振るい続けるコロナ。コロナに罹るリスクを総合的に減らせ、医療体制を維持するためにも私たちが出来ることは、ワクチンを接種することだと考えています。

- ・ 国の大規模接種センターでの接種
- ・ 住んでいる区での集団接種
- ・ 商工会議所での職域接種

どこで最も早くワクチンを接種出来るのか、状況が動き出すのを待つしかない状況が暫く続いていましたが、7月5日に東京商工会議所から接種予約が可能になった旨のメールが届き、7月16日に1回目、8月13日に2回目の接種を受けることが出来ました。おかげさまで急展開に状況が動き出し、しっかり副反応も体験、それでも接種1日半後にはすっかり元の体調に戻りました。

11月には希望者全員への接種が終わる予定のようですが、早いタイミングで接種を終えられたのは本当に幸運でした。

世界がコロナに見舞われ始めてから間もなく2年となりますが、暫くはコロナの影響が様々に出るものと考えています。

製造卸の立場の弊社が今、出来ること

色々と考え、模索し、ようやく踏み出せた一歩も今回はご紹介します。

東京都と公益財団法人日本デザイン振興会（JDP）による、企業とデザイナーのマッチングを目指す企業参加型のデザイン・事業提案コンペティション「東京ビジネスデザインアワード」。『都内ものづくり企業の優れた技術や素材に、デザイナーのアイデアや視点を掛け合わせ、新しい可能性を生み出します。』と言うコンセプトのもと開かれるアワードとなります。

弊社は、代々受け継がれて来た縫製技術を次世代の担い手へと何とか託せないものかと取り組んで来ていますが、なかなか新たな担い手に出会えずにいます。

これは弊社だけの事象ではなく、裂地バッグ業界全体が同じような状況で、ひいては「職人」が活躍する多くの業界で同じような「後継者不足」が起きています。

私自身も袋物制作に取り組み始めていることもあり、考え、書類選考、ウェブ面接を経て、光栄なことに採択されたテーマは、『業界の未来を担う「裂地袋物縫製技術」』。

縫製技術を継承するため、多面的にデザインして頂き、新たなモノづくり、販路作り、そして、職人の新たな成り手にも興味を持ってもらえるような仕組み作りへと繋げられるよう、総合的な取り組みの実行を目指します。



東京ビジネスデザインアワード

東京ビジネスデザインアワードのウェブサイトで、弊社が掲げたテーマに関するさまざまな情報が順次、公開されていきます。どなたでもアクセスして頂けますので、宜しければサイトにアクセスして見て下さい。

<https://www.tokyo-design.ne.jp/designer/>



弊社ひいては業界が置かれている状況を広く知って頂ける良い機会となりましたが、何より弊社がテーマに掲げる「縫製技術」に興味を持ち、一緒に取り組んで下さるデザイナーさんとのマッチングを成功させなければなりません。

このプレジール通信をお読みの皆さまのなかに、こう言った案件にお勧めのデザイナーさんをご存知な方がいらっしゃるとしたら、アワード事務局を通じてご連絡を頂けるよう、デザイナーさんにお声掛け頂けないでしょうか？

ひとりでも多くのデザイナーさんにこのテーマを知って頂き、ひとりでも多くのデザイナーさんが興味を持って下さることを願っています。

マッチングが成就し、その成果を改めてこのプレジール通信でお知らせ出来るよう、頑張っていきます。

どうぞ宜しくお願い致します。